

○三毛猫のモンローウオーク秋日和

茶の花を手折りてくれし好々爺
青首のタトウのありし聖護院

道彦

○歴代の墓石小さしお茶の花

破棄さるる百枚冬の鴟

酔花

薄墨のななめに禿びる龍馬の忌

秋の蝶やつとなじんだ竹箒

秋さびし母の形見の風車

大根や肥満症です冷蔵庫

えり

綿虫の降ってわいたる昼下り

えり

茶の花や蠶繭終の住処とす

棘までも旨くなれよと大根炊く

○藪の中茶の花娘潜みけり

落陽を青鷺一羽眺むなり

落陽は金色に変え冬の街

夕子

○四十年愛した鍋で大根炊く

ふるさとの雨に茶の花香る頃

宅配で届く大根白極む

万貴

大根の葉も持ち帰るエコバック
お手製のママの沢庵漬も出て
飯の締め沢庵漬の一切れや

○古里の庭に茶の花戸の軋る

○冬の雨被曝の町に額衝きし

土付きの大根ぶらさげ漢来る

佐和子

○茶の花の蕊の高さのほほゑまし

青々と葉も旨さうな大根かな

散る木の葉残る木の葉も風の中

○脱藩の道に茶の花 生き急くな

もういいよ默契はじけ鳳仙花

夫の乱 年々広がる大根畑

文子

○あやまちを重ねて崩す煮大根

○お茶の花やがては還る地に零れ

○老人に居場所の無くて十二月

○大根葉の煮浸し好きな子の帰る

廃屋の塀の茶の花明りかな

朴落葉空と大地を明るくす

初江

○花茶垣途切れし先に友愛園

○神の旅 Suica に入れる一万円

外っ国の人も大根の皮を剥く

味元 昭次 作品

大根卸し厨に禿びている幸せ

煮大根に箸突っ込んで明日も生く

亡き人の大根の句を呟きぬ

